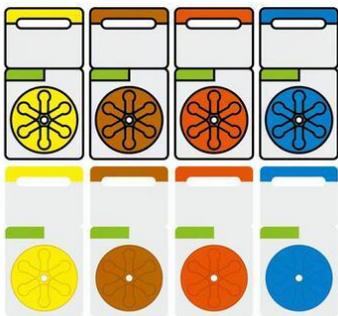


きこえ・ことば

2023年11月
小学部自立活動担当

保護者のみなさま、いつも発音の宿題のチェックや、お子さんとの取り組みなど、ご協力くださりありがとうございます。2学期の「きこえ・ことば」をお届けします。お子さんと一緒に読みながら話し合っただけであればありがたいです。

補聴器の電池・人工内耳の充電機はどこにありますか？



毎朝、お子さんは(あるいは親子で)、補聴器や人工内耳の動作確認をしてから登校していることと思いますが、家庭での動作確認はどのようにしていますか。空気電池の確認には、電池チェッカーを使っているでしょうか。それとも、装用して、聞こえるかどうかをチェックしているでしょうか。

また、授業中や通学時に電池が切れてしまうことを想定し、予備の電池や充電機を持たせてくださっていることでしょうか。

ところで、予備の電池や充電機は、どこにあるのでしょうか。「ランドセルに入れてある」という場合には、教室の中の授業中であれば、電池が切れた時に、教員に伝えてから比較的早く交換することができます。しかし、音楽や図工・理科・体育・発音(高学年)などの、教室ではないところでの授業中に電池が切れてしまったときは、どうすればよいでしょうか。その場合は担当の教員に伝えてから、教室まで電池を取りに行かなくてはなりません。その間に授業が進んでしまい、流れから外れてしまうこともあれば、逆に授業を進められず、他の子どもたちに迷惑をかけてしまうこともあるかもしれません。

では、どこに電池を置いておけばよいでしょうか。1つは「筆箱の中に入れておく」という方法があります。また、「専用の電池入れケースを専科の教室まで持っていく」という方法もあります。そのほかに、もっとよい方法があるかもしれません。もう1度お子さんと話し合ってみてほしいと考えています。

人工内耳と補聴器を併用していて、補聴器の電池切れに気づかず過ごしているというお子さんに出会うことがあり、日々の電池残量チェックの大切さを感じています。



(例) ジッパー付の
ビニール袋などに入れて
持ち歩く。

補聴援助システムの有効活用

先日、昨年度に引き続き、たいいくフェスタを校庭で実施しました。

昨年度は、補聴援助システムのスピーカーを2台使用して実施しましたが、今年度は、さらにお子さんの聴覚補償をしていきたいという考えのもと、スピーカーを3台使用して実施しました。また、けやきタイムに実施しているけやき遊び・けやき集会のときにも、補聴援助シス

テムを活用できるようにしています。校庭は、工事の音や電車の音など、雑音が多い場所なので、今後も校庭での集団活動の際には、補聴援助システムを有効活用していきたいと考えています。

発音体感を生かして学ぶ楽しさを実感させる取組

先日、全日本聾教育研究大会に参加し、小学部の発音の授業で実践してきたことについて、上記のテーマで実践発表をしてきました。研究大会では、「パ行音とバ行音」の発音の違いを、楽しく学べる方法の工夫について発表しました。パ行音とバ行音の違いを一言で表すと、パ行音の子音p音は息で発音し、バ行音の子音b音は、声を伴って発音するということと言えます。したがって、b音の発声時には、声帯振動が伴うので、喉をさわると、ぶるぶる震えることが体感できます。しかし、それだけでは本当に正しく言い分けられているのか自信のないお子さんがいます。b音の指導法を考えていた時に、黒川伊保子氏の「怪獣の名はなぜガギグゴなのか」という著書に出会いました。この中には「発音体感とは、発音するとき口の中で起こっている物理現象である。耳に聞こえてくる音に加えて、喉や唇の力加減、息の流れ、唾の混じり方、飛び方などの物理効果によって私たちの脳には、爽やかな風の印象や、温かな開放感などが与えられる。」との記述があり、このことを指導に生かしたいと考えました。また、「ポッキー、プリッツなど、唇や口元で歯切れを楽しむ、気軽につまみたいスナック系のお菓子の名前にはパ行音が多く使われている」(飯田朝子著「ネーミングがモノを言う あのヒット商品から「東京スカイツリー」まで」)からもヒントを得て、プリッツをくわえながらパ行とバ行を発音した時の唇の接触具合や振動の違いについて確かめるという学習をしました。すると、「パ行音は唇の中央が接触する、軽い感じ、バ行音は唇全体が接触する、重い感じ、唇が振動する」という違いを体感することができました。これからも、発音体感を生かした指導を進めていきたいと考えています。



♪「歌」を発音指導に

今年度の低学年の発音の授業では、季節や練習中の音おんに合わせて、簡単に覚えられる名曲を取り上げるようにしています。例えば、5月の青空がきれいな時期には、「あの青い空のように」、梅雨の時期には、「あめふりくまのこ」、ナ行音の練習中には、「なべなべそこぬけ」「おなかのへるうた」、マ行音の練習中には「森のくまさん」、タ行音の練習中には「楽しいね」「てるてるぼうず」などを歌うようにしました。高学年の授業では、希望するお子さんに対して、好きな歌を動画に合わせて歌う時間も設けています。ふだんの会話よりもゆっくりと口や舌を動かしながら歌を歌う活動は、発音の練習にもってこいだと考えています。これからも覚えやすく、有名な歌を探して指導に取り入れたいと思っています。